

ゼミ活動等学生の活躍

法学部

ILOリサーチプログラム春学期成果発表会を開催

2025年7月18日、茗荷谷キャンパスで法学部のグローバル・プログラム「ILOリサーチプログラム」春学期成果発表会を開催しました。3名の学生が、スイス・ジュネーブでの研修に向けて、マレーシアでのインドネシア人移民の権利保護、ネパールの債務労働削減、デジタル空間での児童労働の再定義の3テーマで研究成果を発表。オープンカフェ形式で教員・学生との活発な議論が行われ、研究を深化させる貴重な機会となりました。学生たちは今回得た知見をもとに、夏季にはILO本部での研修・英語発表に臨みました。



商学部生が「産・学・官・金」のスキームで奥多摩三村（檜原村・小菅村・丹波山村）の地域課題解決に取り組む

商学部ではPBL（Project Based Learning）型の「ソーシャル・アントレプレナーシップ・プログラム（SEP）」を設置し、奥多摩三村（檜原村・小菅村・丹波山村）の地域課題解決に取り組んでいます。2021年には株式会社東京きらぼしフィナンシャルグループおよび株式会社きらぼし銀行と包括連携協定を締結しました。2025年度もきらぼし銀行は企業版ふるさと納税を通じて寄附を行い、学生約100名の活動を資金面・教育面で支援しています。産官学金が連携する新たな地域活性化のモデルとして展開中です。



国際経営学部生 台湾台南市で行われた国際学術会議で英語で研究成果を発表

2024年11月7日～8日、南臺科技大學（台湾）で開催された The 20th International Conference on Knowledge-Based Economy and Global Managementにおいて、国際経営学部中村潤研究室所属の3年生18名が査読付き論文を発表しました。テーマは、喫煙者の意思決定分析、エフェメラルSNSと依存傾向の関係、社会科学系学生へのSTEM教育の課題、生成AIの活用実態など多岐にわたりました。学生たちは活発な質疑応答や現地学生との交流を通じ、国際的視野を広げる貴重な経験を得ました。



本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。＜2024年10月～2025年10月＞教員の身分や学生の学年は、記事掲載時の情報です。

経済学部小森谷ゼミ 税関が主催する学生フォーラムで優秀賞を受賞

2025年2月25日、財務省関税局などが主催する「国際物流と貿易の未来を考える『学生フォーラム』」が横浜税関で開催され、経済学部 小森谷徳純ゼミのチーム・サターン（石井快さん、住田結香さん、中瀬創喜さん、宮城安那さん〈いずれも経済学部3年〉）が優秀賞を受賞しました。発表テーマは「人権保護を目的とした政策が経済に与える影響」。2023年に税関発足150周年事業として始まった本フォーラムで、中央大学経済学部の学生が優秀賞を受賞するのは3年連続となります。



総合政策学部生3名が所属するチーム 「データサイエンス・アイデアコンテスト2024」で「マイナビ賞」を受賞

2024年10月26日、中央大学後楽園キャンパスで開催された「3大学（関西・中央・法政）共催 データサイエンス・アイデアコンテスト2024」最終選考会において、総合政策学部2年の塩野健太さん、大槻勇人さん、冨田佑奈さんらのチームが、協賛特別賞「マイナビ賞」を受賞しました。テーマは「シニア・オープンデー -シニアの学び直し推進-」。さらにマイナビから1組のみに贈られるオープンバッジも授与されました。人生100年時代のキャリア形成を題材に、シニア世代の生涯学習を促進する具体策が高く評価されました。本コンテストはデータサイエンス・AIを用いたデータ活用の実践を目的としています。



国際情報学部4年 田畑美徳さん 制作ドキュメンタリーが 第44回「地方の時代」映像祭2024で奨励賞を受賞

国際情報学部4年の田畑美徳さん制作のドキュメンタリー「あしたよなあー不時着した特攻隊員ー」（38分）が、第44回「地方の時代」映像祭2024（NHK・民放連ほか主催）で奨励賞（市民・学生・自治体部門）を受賞しました。本作は、太平洋戦争末期に特攻機が不時着した鹿児島県・黒島を舞台とした島民と特攻隊員の交流、「特攻」という悲劇、そして、記憶を未来へつなぐ高校生たちの思いを描いています。同作品は、2024年12月に新宿ケイズシネマで開催された「東京ドキュメンタリー映画祭2024」で、劇場上映されました。



ドローン研究会所属の学生 「令和6年度八王子学生CMコンテスト」で 審査員特別賞を受賞

大学コンソーシアム八王子主催の「八王子学生CMコンテスト」において、ドローン研究会の岡大空さん、石原和鷹さん、佐藤凜さん、黒島康介さんの作品が審査員特別賞を受賞しました。本コンテストは、学生ならではの視点で八王子市の魅力を30秒の動画CMとして表現するもので、学園都市八王子の魅力発信と学生の表現力育成を目的としています。今年度用の周知用ポスターデザイン部門でも、同研究会の作品が最優秀賞に選ばれました。



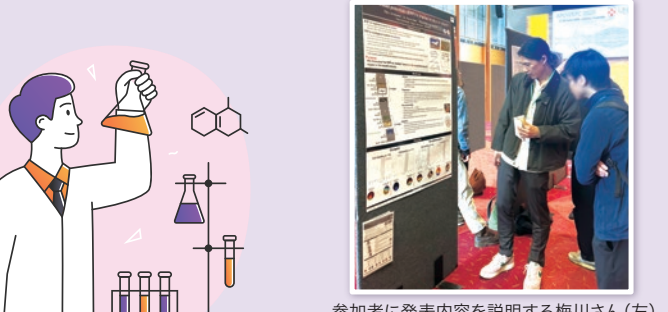
理工学研究科博士課程後期課程3年 田崎元さん 電子情報通信学会 情報セキュリティ研究会で 情報セキュリティ研究奨励賞を受賞

理工学研究科電気・情報系専攻博士後期課程3年の田崎元さんが、2025年1月28日にリーガロイヤルホテル小倉で開催された電子情報通信学会主催「暗号と情報セキュリティシンポジウム（SCIS2025）」での授賞式にて、情報セキュリティ研究奨励賞を受賞しました。同賞は若手研究者の育成を目的に2014年度に設立されたものです。田崎さんの論文「データ多様体に着目した深層学習の構造解析による敵対的サンプル攻撃の内的要因の解明」が高く評価されました。なお、田崎さんは以前にも「第36回独創性を拓く先端技術大賞」特別賞を受賞しています。



文学研究科博士前期課程心理学専攻2年 梅川璃空さん EPC & APCV Joint Meeting 2025で発表賞を受賞

文学研究科博士前期課程心理学専攻2年の梅川璃空さんが、2025年6月17日～20日にオーストラリア・シドニーで開催された EPC & APCV Joint Meeting 2025（The Australasian Experimental Psychology Conference and Asia Pacific Conference on Vision）において、Best Student Presentation Awardを受賞しました。梅川さんは2024年7月の国際赤ちゃん学会（ICIS、グラスゴー）での Travel Award に続き、国際的に活躍の場を広げています。



理工学研究科修士2年 藤田真悠花さん 第31回日本血液代替物学会年次大会において 優秀講演賞を受賞

理工学研究科修士2年の藤田真悠花さん（小松研究室所属）が、2024年12月5日～6日に同志社大学で開催された第31回日本血液代替物学会年次大会において、優秀講演賞を受賞しました。発表題目は「ユニバーサル赤血球としての高分子結合赤血球の開発」。藤田さんが所属する小松研究室では、タンパク質を人工的に設計・合成することで、医療や環境、エネルギー分野に応用可能な新しいバイオマテリアルの創製に取り組んでいます。



文学研究科博士前期課程心理学専攻1年 佐々木浩汰さんら 研究発表が日本認知心理学会優秀発表賞 （新規性評価部門、発表力評価部門）を受賞

文学研究科博士前期課程心理学専攻1年の佐々木浩汰さん（2024年文学部卒）、人文科学研究所の米満文哉研究員、文学部教授有賀敦紀が、日本認知心理学会優秀発表賞（新規性評価部門・発表力評価部門）を受賞しました。受賞した研究は、佐々木さんが学部時代に執筆した卒業論文「生き物らしさを排除した『不気味の谷』現象（原題は英語）」で、アニメシー（生物らしさ）の無い刺激を用いて実験を行い、認知心理学の世界で有名な「不気味の谷」現象が、知覚的処理流暢性のみでは説明できず、また認知的処理流暢性が直接「不気味の谷」を生じさせるわけではないことを示しました。精緻で独創的な実験設計、明快な発表が高く評価されました。



国際情報研究科 修了生 猪谷誠一さん、国際情報学部教授 須藤修 共著論文が法学分野のトップジャーナル 『International Data Privacy Law』に掲載

2025年3月に国際情報研究科を修了した猪谷誠一さんと、国際情報学部教授須藤修による共著論文が、法学分野の主要国際誌『International Data Privacy Law』（オックスフォード大学出版局）に原著論文として採択されました。同誌は、Clarivate社のJournal Citation Reportで法学分野の学術誌434誌中53位、ScopusのSJIRランキングでは法学分野1089誌中95位に位置する、国際的にも評価の高い学術誌です。

